

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 28 年度第 1 回高松市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成 28 年 7 月 29 日(金) 14 時 00 分 ～ 15 時 20 分
開 催 場 所	高松市役所 11 階 114 会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 高松市の廃棄物減量・資源化の状況について (3) 小型家電等リサイクル推進事業について (4) 高松市災害廃棄物処理計画（仮称）の策定について (5) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	11 人 生嶋暹、岩部旻、栗島由紀子、篠田大輔、高橋一成、古川尚幸、古川由美、細谷芳久、松山千恵子、宮武寛、龍満美廣
欠席委員	2 人
傍 聴 者	2 人    (定員 10 人)
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課    (Tel839-2388)

### 審議経過及び審議結果

(1) 会長・副会長の選任について

会長に古川尚幸委員を推薦する意見が出され了承された。

副会長に岩部委員を推薦する意見が出され了承された。

(2) 高松市の廃棄物減量・資源化の状況について

(事務局説明)

(委員)

ごみ全体の排出量は減っているのか。

(事務局)

減少している。ただ、資源ごみの排出量も減少していることが気になる点である。

(委員)

資源ごみの減少は、ペーパーレス化やスチール缶の軽量化等だけが原因と思えないところがあるので、他に原因がないのかを分析等する必要がある。

(事務局)

現在、香川県が、紙ごみのリサイクルや食品ロスの調査研究をしているので、市も協力して実態を研究していきたい。

(3) 小型家電等リサイクル推進事業について

(事務局説明)

(委員)

集めた小型家電を認定業者に、いくらで渡しているのか。

(事務局)

平成 27 年度では、キロ当たり 33 円。今年は下がっている。

売払価格は、集めた小型家電の品質に左右されるが、高松市で行っているボックス回収では、品質の高いものが集まっている。

(委員)

高齢者等を対象に、どういった種類の小型家電が回収されるのかなどを説明してもらおう出前講座等を、行ってもらえるのか。

(事務局)

依頼があれば、出前講座等を行う。

(委員)

私自身が、小型家電を回収するこの取組を知らなかった。スーパーなど多くの人が集まるところに大きくポスターを掲示するほか、集める小型家電の種類をより明確にすることで、より多くの市民の協力を得られるのではないかと。

(事務局)

現在、回収する小型家電の種類を記したチラシを作成し、コミュニティセンター等に設置するほか、広く市民に配布することで周知・啓発に努めている。ボックス回収については、現在、2 店舗に回収ボックスを設置させてもらっているが、店舗によっては独自の取組を行っているため、なかなか回収ボックス設置の了解を得られていない状態にある。

(委員)

携帯電話等は業者が高く買い取っている。

小型家電回収のチラシについては、自治会に加入していない世帯など、行き届いていないところもあるのではないかと。

(委員)

小型家電回収のチラシが、高齢者が見やすいように大きくなればよいのではないかと。

(事務局)

小型家電の回収が進むように、色々と検討していきたい。

(4) 高松市災害廃棄物処理計画（仮称）の策定について

(事務局説明)

(委員)

災害廃棄物を仮置場で分別し、再資源化するとあるが、現実として可能なのか。

(事務局)

災害の状況によっては、分別が困難な場合もあると思う。ただ、平成 16 年の水害時では、約 36 千 t の災害廃棄物が発生し、早急に復旧するために、そのほとんどを埋め立てたが、次の災害時にも同じように埋立処理に頼った場合、埋立処分場の容

量を大きく圧迫するといった問題が生じるので、できるだけ分別し、再資源化したいと考えている。

(事務局)

熊本地震では、災害廃棄物の分別を仮置場で実際に行っており、また、国の指針においても、災害廃棄物の撤去段階から分別を積極的に実施するよう記載されているので、高松市においても、そこに留意して計画を策定したい。

(委員)

東日本大震災のときも、災害廃棄物の分別が行われていた。

(委員)

災害廃棄物を分別していく方向は、良いと思う。

(委員)

災害廃棄物を置く場所も、計画の中で明記している方が、緊急時に動きやすいと思う。

#### (5)その他

- ・超特小（50サイズ）の有料指定収集袋の新規導入とその運用開始について

(事務局説明)

(委員)

超特小の袋の販売後、販売実績など需要について、報告いただけるのか。

(事務局)

実績を取りまとめた後に報告したい。

(委員)

ごみを、こまめに出したいときがあるので、超特小の袋は非常に良いと思う。

(委員)

小さな子供達に、ごみ出しを实践させるときにも、超特小の袋はちょうど良い。

- ・し尿処理の MICS 事業について

(事務局説明)

- ・その他

(委員)

議題(3)の小型家電の回収の取組について、店舗が、常に回収ボックスを設置し、周知等を行っていくといったことには、難しいところもあるが、例えば、月 2 回、市職員にも店舗に来ていただき協力をいただけるなどであれば、幅が広がるのではないかと思う。

以上